

『夜と霧』

ヴィクトール・E・フランク著、池田香代子訳／みすず書房

2012年8月NHKテレビ「100分de名著」において、フランクの『夜と霧』が取り上げられた。ウィーンの子科医であったフランク（Viktor Emil Frankl、1905-1997）は、ユダヤ人というだけの理由でナチス・ドイツによって1942年から約三年の間、アウシュビッツなど3カ所の強制収容所に送られ、自らも生き地獄を体験すると同時に、極限状態におかれた人間達を目の当たりにし、父母・妻はじめ妹以外の全家族を失った。その悲劇を風化させてはならないとの使命感に燃えたフランクは、終戦後わずか9日間で『夜と霧』を書き上げた。この本は1947年の発刊以来、世界中で読み継がれ、我国でも1956年に初版が発行された。特に米国では1991年に「私の人生に最も影響を与えた本」のベスト10に入った。この本の中でフランクは、堪え難い状況下の人間は無感動・無感覚・無関心によって「心の装甲」をまとい「文化的休眠」に入っていく事を観察したのみならず、「希望」を持っているかどうかが生死を分けた事も見いだした。フランク自身も書きかけの論文「医師による魂の癒し」を出版するまでは死ねないと願っていたことだけが、自殺によってこの苦しい非人間的な状況から逃れる事を抑止していた。さらに繊細な性質の人の方がしばしば頑丈な身体の人よりも収容所生活をよりよく耐えた事をも発見した。そして彼は自らが若干21歳の時に提唱した「ロゴセラピー」（意味による癒し）のいう人生の三つの価値、つまり「創造価値」「体験価値」「態度価値」の理論を、自分自身で実践する機会が与えられたと考えた。またフランクは収容所の中で、自殺志願の同僚達から「もう人生からは何も期待できない」と相談された時、「人生から何が期待できるかではなく、むしろ人生が何を我々から期待しているかが大事である」として価値の転換を説いた。それは人間の欲望には際限がないため、「もっともっと」と何かを求め続けてしまい、その結果、人は絶えざる欲求不満の状態に追い込まれてしまう。これに対して「人間は生きる意味を求めて人生に問いを發するのではなく、人生からの問いに答えなければならない。そしてその答えは、人生からの具体的な問いかけに対する具体的な答えでなければならない」と説明した。そしてその答えは人によって異なり、著作や子育てなど自らの仕事を通して実現される「創造価値」、自然や人とのふれあいの中でもたらされる「体験価値」、自らも飢えているのに餓死寸前の同僚にパンを

与えるような「天使の行為」を選択する自由の「態度価値」に分けられ、その三つの価値のいずれかによって人生をいつでも有意義なものにする事ができると主張した。

フランクル自身も、他の人々が人生の意味を見いだすことを援助することが自分自身の仕事であると信じる「創造価値」、過酷な早朝労働の最中に妻の眼差しを思い浮かべて「愛による愛の中の被造物の救い」を感じた「体験価値」、そして過酷な労働に疲れ果て飢え病に冒されていても苦難を静かに引き受け跪いて祈る「態度価値」を実践して、苦しい収容所生活を生き残ったのであった。戦後、米国に渡り死刑囚刑務所を訪問して講演を続けたフランクルは言う、「あなたがどれほど人生に絶望しても、人生の方があなたに絶望する事はない。」

二万人近い犠牲者を産み、被災後一年半を経ても未だ34万人の避難者の苦しみと荒れ果てた故郷を残している東日本大震災からの復興活動に際して、生き残った我々はもう一度「人生は我々に何を求めているか？」と各自に問い直してみる必要があるのではないであろうか。

参考文献

1. NHKテレビテキスト「100分 de 名著」フランクル『夜と霧』2013年3月
2. Viktor E. Frankl (1905~1997) : “Ein Psycholog erlebt das Konzentrationslager”, 1947

執筆者紹介

福本 一郎

生物機能工学専攻教授（平成27年3月退職）。専門領域は、医用生体工学。

『書名』 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『夜と霧 新版』 Viktor E. Frankl著 池田香代子訳 みすず書房 2002年 1,620円

『NHKテレビテキスト「100分 de 名著」－フランクル『夜と霧』』 諸富祥彦著
NHK出版 2012年 566円

『Trotzdem Ja zum Leben sagen : ein Psychologe erlebt das Konzentrationslager』 Viktor E. Frankl著 Kösel 2012年 2,447円

[ブックガイド目次へ](#)